



IPアドレス管理指定事業者連絡会

2003.4.23

第15回 APNIC Open Policy Meeting のご報告

(社)日本ネットワークインフォメーションセンター
IP事業部 穂坂 俊之



Contents

1. ミーティング概要
2. 公式セッションの紹介
3. 非公式セッションの紹介
4. まとめ



1. ミーティング概要



第15回 APNIC Open Policy Meeting について

APRICOT、IPv6 Summitと並行して開催

開催期間: 2月24日-2月28日

開催都市: 台北 TWNICがローカルホスト

参加者 : 558名 (APRICOT全体)

JPNIC事務局からの参加者: 6名

APNIC 15 ウェブサイト

<http://www.apnic.net/meetings/index.html>

今回のミーティングのトピックス

- APNIC EC選挙実施
- VNNICの設立
- ミーティングサービスの充実
 - a) 英中同時通訳サービス
 - b) マルチキャストリアルタイム中継サービス
 - c) オンサイト・ノーティスボードの設置



ミーティング全体の構成

- オープンNIRミーティング (NIR: National Internet Registry)
- Special Interest Groups(SIGs)
 - DB, IPv6 tech, address policy, routing, IX, DNS ops
- Bird of Feathers(BOF)
 - APOPS (Asia Pacific Operators Forum)
- トレーニング・チュートリアル
 - APNIC Training、IRR・RPSL Tutorials
- APNIC総会
- その他非公式ミーティング
 - HM Consultation Session, NIR Workshop, NIR technical workshop

HM: Hostmaster – 審議担当者

ミーティングの焦点

以下2点が今回の公式ミーティングにおいて
議論の焦点となった

1. IPv6ポリシーの見直し
2. ポリシー策定のプロセスについて



2. 公式セッションの紹介



オープンNIRミーティング

- NIRに関わるテーマについて議論するセッション
- 今回は以下3点のプレゼンテーションが行われた
 1. NIRによるIRRの運用について(JPNIC IRR研究会 近藤邦昭)
 2. TWNICレジストリシステムの紹介(TWNIC David Chen)
 3. NIRの会費と投票権について(JPNIC 奥谷泉)

***上記 1. / 2. は報告事項、3. は提案事項**

JPNIC オープンNIRミーティングの様子



TWNICの技術者 David Chenの発表



NIRの課金・投票権について

- 提案の背景
 - 現在は、NIRのみ“per address fee”を請求されるが投票権はLIRと同じというモデル
- 提案内容
 - 現在のモデルの問題点を指摘し、JPNICから見直し検討を提案
- 会場からのコメント
 - 確立に長い時間と会員の承認を有した既存のモデルにはそれなりの意味がある
 - 大きな変更であるが、議論を行っていくことは重要



NIRの課金・投票権について

結論

見直しの必要性も含めてMLで継続議論

NIRミーティングの結果

1. TWNIC Chia-Nan HsiehがCo-Chairに選出
2. VNNICが新メンバーに追加
3. NIRの課金・投票権はMLで継続議論
4. NIRミーティングは次回からSIGとして開催
5. NIRのオープンポリシーミーティングの状況報告を次回から各NIRが行う

アドレスポリシーSIG

- インターネット資源のポリシーについて議論するセッション
 - IPv6ポリシー見直しと、APNICのポリシー策定のプロセスが今回の議論の焦点となった
1. 現在のIPv6ポリシーの見直しについて(RIPE IPv6 WG David Kessens)
 2. RIRによるIPv6アドレス空間の管理について (APNIC Paul Wilson)
 3. APNICのポリシー策定プロセスについて(APNIC Anne Lord, IJ Randy Bush)

この他8点のプレゼンテーション

アドレスポリシーSIGの様子



各国からのポリシーSIG参加者

IPv6ポリシーの見直しについて

- 提案の背景
 - 暫定ポリシー実装後、半年以上が経過
 - 内容
 - RIPEコミュニティからのIPv6ポリシーへの意見紹介
 - 「2年以内に最低でも200の/48の割り当てを行う計画があること。」という点の解釈
 - 「計画があれば申請できる」
 - 「200の割り当ての確たる見込みがないと申請できない」
- 現在も議論されている。



IPv6ポリシーの見直しについて

結論

グローバルエディトリアルチームが意見聴取継続



IPv6アドレス空間の管理について

- 提案の背景
 - IPv6アドレスについて、現在と同じようにIANAからRIRへの割り振りを受け、それをLIRへ再割り振りするというスキームは、アドレスの断片化(フラグメンテーション)を招くという懸念
- 内容
 - RIR (APNIC/RIPE NCC/ARIN/LACNIC) 間でアドレスの共有プールを設定し、IANAからはその共有プールに対し割り振りを受ける
 - 各LIRはその共有プールから割り振りを受ける



IPv6アドレス空間の管理について

結論

提案内容について参加者からの反対はなかったものの、最終決定とはせずに今後議論を重ねる

JPNIC APNICのポリシー策定のプロセス

- 提案の背景
 - 現在のAPNICのポリシーはミーティングでコンセンサスが得られれば3ヶ月後に実装される
 - ミーティング以外の場でも十分な議論を行ったうえで実装する必要性が一部から指摘されていた
- 内容
 - APNICのポリシー策定プロセス紹介(Arne Lord/APNIC)
 - 現在のプロセスでは広い参加者を取り込んだ十分な議論が行われないことを指摘(Randy Bush/IIJ)
 - MLでの議論も行うべき
 - 提案はスライドだけでなく、テキストでの提出も行うべき、等

結論

以下の点で参加者の賛同は得られたが継続議論を行う

- ミーティングのみでの決定は行わず、MLで議論を行う期間を設ける
- すべての提案は、プレゼンテーションスライドに加え、テキストでも提出することにより内容を明確化する



アドレスポリシーSIGの結果

- Yong Wan Ju、Kenny HuangがCo-Chairに選出
- IPv6ポリシーの見直し
 - エディトリアルチームが継続して意見聴取を行う
- IPv6 space management
 - RIRによるプール共有化の概念には賛同が得られたが最終決定までにはさらに議論が必要
- ポリシー策定のプロセス
 - MLで議論を行う最低期間を設けること、テキストベースでも提案内容を提出することで同意
 - プロセス概念についてはMLで継続議論

その他のSIGの主な結果

データベースSIG

1. LIRによる独自Whoisの運用を許可したい(継続議論)
 - NIRのWhoisも将来的にはRPSL対応を検討することを希望された
 - ARINでもRwhoisとして運用している
2. DB登録情報の掃除
 - 参照されていない情報の削除
 - APNIC管理下ではない情報の削除
 - RPSLに対応していない登録情報の変更

DNSオペレーションSIG

1. 機能していない逆引きDNS登録情報の更新を促進
 - 具体的な詳細については継続議論



APNIC総会

- 各RIRからの活動報告、APNICの予算報告、SIGのコンセンサス承認、懸案事項への投票等が行われる
- 今回はAPNICの理事にあたるEC(Executive Council)の選挙を実施
- 以下の4人が当選
 - Yong Wan Ju (韓国)
 - Ko Wei Wu (台湾)*
 - Qian Hualin (中国)*
 - Ma Yan (中国)

* 再選

APNIC総会の様子



APNICのHMマネージャ Sonによる統計データ紹介



各RIR活動報告から

- APNIC
 - IPv4/v6アドレス割り振り数等の統計報告(AP地域では日本が割り振り数トップ)
 - 2002年度収支報告(US\$790,000の黒字)
- ARIN
 - ERXプロジェクト、データベース登録情報整理の報告
- LACNIC
 - 2002年10月よりICANNより承認を受け、正式業務を開始
 - 電子投票やシステムの課金管理等も実装済
- RIPE NCC
 - IPv6割り振りが急激な伸びを示し、4RIRの中で割り振り数1位
 - 「LIR Portal」を実装。RIS(Routing Information Service)ではIPv6アドレスの情報も提供
 - 専門のコンサル会社へ委託し、会員の意識調査を実施



3. 非公式ミーティングの紹介



ホストマスターコンサルテーション

- 申込を行えばAPNICのホストマスター(審議担当者)と個別に相談を行うことのできるミーティング
- APNICからはHMマネージャ Son、JPNIC申請担当の NarumonとSunnyが出席
- 個別ケースの相談と申請中の案件の対応依頼を行った

Narumon



Son



Sunny



JPNICでも同様のセッションを、本日午後に初の試みとして実施します。



NIRワークショップ

APNIC、NIR間で業務に関する情報交換を行うミーティング

- 今回の議題
 - 新申請フォーム、PGP認証の紹介、ERXを始めとするAPNICの業務に関するアップデート
- 次回の議題
 - 各NIRの特殊案件紹介
 - Looking glassの使い方について
 - 割り振り時の経路集成実現について



NIRテクニカルワークショップ

- APNIC、NIR間で、特にレジストリシステムに関する情報交換、議論を行うミーティングで、今回から開催
- 今回の議題
 - 各NIRのレジストリシステムの紹介
 - APNICシステム担当者との質疑応答



4. まとめ

ミーティング結果のまとめ

- Yong Wan Ju(韓国)、Ko Wei Wu(台湾)、Qian Hualin(中国)、Ma Yan (中国)がAPNIC ECに当選
- VNNICが新NIRとして設立
- ポリシーの提案はすべてテキストベースで提出し、MLでの最低議論期間を設ける
- ポリシー決定プロセスの概念、IPv6ポリシーの見直し、IPv6アドレス管理についてはMLで継続議論
- DB登録、逆引きDNS情報の掃除

直近でJPコミュニティに影響のある決定事項はないが、IPv6ポリシー見直しの検討などは、中長期的に影響を与える可能性がある。



今回のJPNICの活動

- オープンNIRミーティングでのプレゼンテーション
- アドレスポリシーSIG等での発言
- APNICホストマスターとの業務の相談・調整
- ARIN担当者との個別案件相談
- NIRテクニカルワークショップの実施調整



今後のJPNICの対応

- IPv6ポリシーについての国内の意見聴取
- IPv6ポリシーの議論については継続してフォロー
- Whois RPSL対応についての検討
- NIR投票権・課金のシミュレーションを含めた取り組み



次回のAPNICミーティング

2003年8月19日～22日にKRNIC主催で、
韓国 ソウルにて開催予定。



Q&A

